

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號三第 卷六第

行發日一月三年七正大

論說

營業稅ノ課稅標準(二)……………法學博士 神戸 正雄

經濟的行爲ト道德的行爲ト關係(四)……………法學博士 田島 錦治

實質上ノ觀察ニ於テ植民地ノ分類…………… 山本美越乃

大阪ニ於ケル舊時ノ鹽問屋……………法學士 本庄榮治郎

露國ニ於ケルまゝのくす説ノ發達(二)…………… 米田庄太郎

社會學ト社會科學(三)……………文學士 高田 保馬

我國ニ於ケル營利心ノ起源及發達(二)……………文學士 銅 直 勇

時事問題

取引所外ニ於ケル定期取引(二)……………法學博士 戸田 海市

勸業銀行ト農工銀行ト問題(二)……………法學士 河田 嗣郎

雜錄

獨逸經濟學界近況(三)…………… 米田庄太郎

米國ノ戰時租稅法(二)……………在 米 阿部 賢一

米國ノ戰時海運政策(二)……………法學士 岸本熊太郎

社會批評家ヲシカあらいる(三)……………文學士 石田 憲次

暴利取締令ノ適用ニ就テ……………法學博士 神戸 正雄

大阪ニ於ケル舊時ノ鹽問屋

本庄榮治郎

一、序言

近者徳川時代ニ於ケル鹽ニ關スル制度ヲ明カニセント欲シ、先ツ幕府ノ之レニ對スル政策如何ヲ研究セントシタルモ、コノ方面ニ於ケル史料ハ未タ甚タ多カラサルモノノ如ク、今俄ニ之レガ變遷ヲ系統的ニ論述スルヲ得サルヲ遺憾トス。タダ大阪ニ於ケル舊時ノ鹽問屋ノ興廢ニ就テハ既ニ大阪市史ニ論スル所アリ。大阪商業習慣錄ニハ『仲間ノ舊記及ヒ古帳簿ハ維新ノ際悉皆之ヲ廢紙ト爲シ今一モ存スルモノナシ』⁽¹⁾トイヘルガ、余ハ茲ニ大阪市役所ニ於テ閲讀スルコトヲ得タル大阪同盟鹽問屋組合沿革史(二冊、寫本)及ヒ灘島赤穂鹽問屋舊記(一冊、寫本、但、赤穂問屋組合申合帳、島鹽問屋ノ云合印形帳其他ヲ收ム)ニ據リ、大阪市史ヲ參酌シ、尙二三他ノ材料ヲ加ヘテ徳川時代大阪ニ於ケル鹽問屋ノ一斑ニツキ之ヲ論シ、且維新以後ノ狀態ヲモ聊カ附記スル所アラントス。

二、鹽問屋ノ起源

大阪ニ於ケル鹽問屋ノ起源ニ就テハ或ハ元龜年間ノコトトイヒ、或ハ慶長年代ニ在リトス。⁽²⁾大阪同盟鹽問屋組合沿革史ニヨレハ元龜天正以前ノコトハ漠トシテ明カナラス、ソノ以後ノコトト

論說

大阪ニ於ケル舊時ノ鹽問屋

第六卷 (第三號) 三九 三四一

(1) 徳川時代商業叢書卷三86頁

(2) 大阪同盟鹽問屋組合沿革史。大阪府誌第一編581頁。

(3) 大阪商業習慣錄(徳川時代商業叢書卷三)86頁

難尙口碑傳説等ニヨリテソノ状態ヲ想見スルニ過キストイフ、今ソノ云フ所ニヨレハ、今ヲ去ル約三百五十年前元龜年間ノ頃ニアリテハ各產地ヨリ五斗入百五十俵乃至二百俵積ノ小舟ヲ以テ運搬シ來リ、北濱井池(通稱鹽池)ニ繫留スルヤ、船頭水夫等ハ走舸ヲ以テ之ヲ各町ニ運ヒ各需要者ト直接相對賣買ヲナセシガ其方法頗ル不規律ニシテ價格ノ高低一樣ナラズ需要者ノ迷惑スル所少カラサリシヲ以テ、同業者法華庄次郎、搦屋彌三兵衛、搦屋孫兵衛ノ三名相圖リ弊害矯正ノ目的ヲ以テ搦問屋ト稱スルモノヲ組織シ時ノ奉行所ニ出願シテ認可ヲ得、同業ニ從事スル者十名トナリ此ノ弊風ヲ改ムルニ至リシトイフ。

三、問屋ノ盛衰

元祿年間ニハ問屋ノ數増加シテ十四名トナリシガ、斯業ノ盛ナリシ享保年中ニ於テモソノ數僅カニ二十名ニシテ獨占ノ弊最モ甚シキモノアリシカ如シ。彼等ハ諸商中最モ驕者ニシテ大廈ヲ建築シ長屋門ヲ設ケテ上女中五六名ヲ使用シ店主ノ接見ハ宛然大名ノ如ク、又問口十五間以上ノ廣キ邸宅ヲ有スルニ非レハ問屋タルノ資格ナキモノトシ、カクテ薄資者ノ同業ニ入ルヲ得サフシメ以テ擅ニ暴利ヲ貪リタリトイフ。⁽⁴⁾而シテコレ等ノ搦問屋ニ就テハンソノ主トシテ取扱ハル搦ノ產地名ニヨリテ之ヲ三問屋ニ區別シタリ、即チ小豆島産ノ搦ヲ請込ム問屋ハ島搦問屋ニシテ、赤穂産ヲ取扱フモノハ赤穂問屋、上灘目搦^(註)ヲ請込ム問屋ハ灘搦問屋トイヒ、之ヲ總稱シテ三搦問屋トイフ。⁽⁵⁾

(4) 組合沿革史。大阪府誌—583頁。大阪市史—551, 752頁

(5) 大阪市史—753頁

(註) 山陽道ニオケル鹽ノ大産地ハ赤穂三田尻、大鹽、味野、竹原、平生、秋穂等ノ地方ニシテ小産地ニ至リテハ枚舉ニ逸ラス。而シテ大鹽地方ノ鹽田ハ播磨印南郡及ヒ飾磨郡ノ海濱ニアリテ姫路市ヲ距ル東南一里乃至二里、大鹽村、曾根村、伊保村、北濱村、的形村、八木村、白濱村、英賀保村ノ八ヶ村ニ跨リ、此地方ノ産鹽ヲ稱シテ古來上灘自鹽ト云ヘリ。上灘自鹽田中最古ノモノハ的形村ノ鹽田ナリトイフ。大阪同鹽攪問屋組合沿革史ニ播州八家浦又ハ播州八家的形等トイヘルハコノ八ヶ村ヲ指スモノニシテ灘鹽問屋ノ名稱ハ上灘自地方ノ産鹽ヲ主トシテ取扱ヘルニ由ルモノナルコト明カ也。

天保十二年諸株仲間ヲ禁止スルニ及ヒ同業者中天満屋七兵衛及ヒ大和屋得右衛門等薄利ヲ以テ需用者ノ便利ヲ計ラント欲シ假組ト稱スルモノヲ設ケ、又嘉永三年ニ斯業者十名住吉講ナルモノヲ組織セシコトハ、當時ノ文書ニヨリテ明カナルガ、嘉永四年株仲間復舊セラルルニ及ヒテ住吉講ハ自ら消滅シ、鹽問屋ハ古組十一軒、假組五軒(後ニ一)ノ二ニ分ルルニ至レリ。⁽³⁾而シテ古組ト假組トノ關係ニツイテハ、嘉永五年二月假組ヨリ古組年行司ニ差入レタル一札ニ

一、私引受候客船鹽荷物積登リ候節ハ早速相届則御立會之上善惡御見分被下直段高下共御差圖次第荷主へ引合、允積取節ハ積荷物之内直段爲正路貳分通各方へ賣渡可申事

一、何事ニヨラス御仲間申入候儀相用決テ違背申間敷候。荷御仲間内へ引受ノ客船荷物私方へ積來リ候共一切取扱仕間敷事トアルニヨリテモ之ヲ察スルニ足ルヘク、假組ハ古組ニ對シテ甚シキ壓迫ヲ蒙リ居タルコトヲ知ルヘシ。而モ古組ハ或ハ播州八家浦ノ荷主ニ對シ假組トノ取引ヲ停止スヘク、然ラスンハ將來古組トノ取引ヲ停止スヘシトイヒ、或ハ假組方ニ到着セル某船鹽荷物ノ引請方ヲ僅ニ二割限トシ、其他ハ積戻スヘシト命スル等ノコトアリテ假組ハ絶エス之ヲ陰忍シ、再三古組ニ加入センコトヲ依頼セシガ、古組ハコノ歎願ニ對シテ巨額ノ加入銀諸入用銀等ヲ要求シ、數回交渉ヲ重ネタル後

(6) 中井貞吉著 鹽業通誌 84, 85頁
 (7) 組合沿革史、大阪府誌 583頁
 (8) 大阪市史、846頁

『三鹽爲加入料登軒毎ニ銀四貫匁相定、内一貫匁當時相納殘ル三貫匁來辰年ヨリ六ケ年納、外ニ銀三百十三匁九分、金二百正式目諸祝儀ハ當時出銀』スルコトナリテ安政二年十一月愈加入ヲ許サルルニ至レリ。當時假組四軒ヨリ三鹽問屋年行司ニ宛テタル一札ニハ仲問古來ノ規約ヲ守リ、一己ノ我意ヲ主張セサルコト、并ニ互ニ從來ノ得意先ニ糶賣ヲ試ムル等スヘテ營業上ノ妨害ヲ爲スヘカラサルコトヲ誓約シタルノミナラス、從來ヨリ古組ノ有セシ債務ヲモ之ヲ分擔スルコトトハナレリ。即チ當時ノ文書ニ曰ク

『然ル處其御仲問(古組)前來ヨリ他借銀御座候旨兼テ承知仕居候間、右割符此度限四貫匁出銀可致約定仕候處相違無御座候。尤一時出銀行届兼候ニ付、御熟談之上右銀四貫匁之内當時壹貫匁差出シ殘リ、三貫匁ハ來ル辰年(安政三年)ヨリ六ケ年割合半季毎ニ銀二百五十匁ソツ無異議相渡シ可申候』

云々ト。カクテ三鹽問屋ハ古組假組ノ別ヲ存セス、合シテ一トナリ、以テ明治ノ維新ニ及ヘリ。⁽⁹⁾ 鹽問屋株ハ他ノ場合ニ於ケルト同シク相當ノ價格ヲ以テ評價セラレ賣買讓渡セラレシモノノ如ク、元龜ノ頃ヨリ天保年間ニ至ル迄問屋一株ト稱スルハ銀二貫目^(約金五十匁ニ當ルトイフ)ノ値ヲ有シ、天保以降明治四年頃迄ハ銀四貫目^(約七匁)ナリシトイフ。尤問屋一戸ニツキ一株ヲ有スル規定ナリ。⁽¹⁰⁾

四 問 屋 定 法

三鹽問屋定法ニツイテハ今ニ傳ハラサルモノ多ク未タ必ズシモンノ變遷ヲ盡ス能ハサルカ如シト雖、今ソノ二三ニツイテ少シク述フル所アラントス。寛保元年二月ノ島鹽問屋ノ定ニヨレハ、

(9) 組合沿革史。大阪市史二、846 頁

(10) 組合沿革史

鹽相場ハ荷主仲買問屋三方立會ノ上ニテ之ヲ定メ、相場定マラサル中ハ出帆スルコトヲ得ザリ
 キ。(11) 其後約二十年ヲ經テ寶曆十一年ニモ三鹽問屋ハソノ仲間定法ヲ定メタルガ寛政四年五月ノ大
 火ニソノ控書燒失シタルタメ同年八月赤穂問屋ニ限リ、舊慣ニ基キテ一ノ定法ヲ作レリ、今ソノ
 要旨ヲ擧ケンニ、先ツ鹽相場ニツイテハ相場立ハ古來ノ仕法ニ從ヒ入船有リ次第早速寄合ノ觸ヲ
 出シ荷主ト引合ヒ正路ニ取組ムヘシ、直組成ラス船頭問屋退散後一人立ニテ直段ヲ引上ケ買入ル
 ルコトアルヘカラス、又積方ハ直組出來ノ上、一同ニテ荷役スヘシ、直組、積方ハ勿論何事ニヨ
 ラス萬事多數ノ了簡ニ從ヒ我意ヲ張ル可ラストシ以テ共同一致ノ步調ヲトルヘキコトヲ明カニセ
 リ。而シテ鹽相場ハ往古ヨリ毎月朔日并ニ五日目毎ニ總會所ニ書上ケンガ爾後ハ毎月四・九ノ日
 ニ書キ上クルコトニ改メタリ。次ニ荷主ト引請問屋トノ關係ニ就テハ「客船贈リ荷物ト唱、是迄
 船引請之間屋へ不參、仲間内問屋之名差致來リ候共其問屋ヨリ品ヨク挨拶イタシ下地引受之間屋
 へ差戻シ可申候。尤正月ニ船出入替リ候義ハ格別ノ事ニ候得共届ケ合ノ義ハ相互ノ事ニ候故隨分
 念入可申候。若シ濱方荷主ヨリ氣受惡敷相成不通ト取引相止メ鹽積登セ無之間屋有之ハ仲間一統
 相談以荷主挨拶致合和談爲致候様ニ互ニ取計可申候勿論懸合中ハ其問屋請荷物無之事ニ付商内差
 支可申間、左様之境ハ濱方荷着イタシ候迄仲間中ヨリ代口物分合致融通商内之手支無之様可致事」
 ト規定セリ。是レ鹽問屋仲間ガ内部ニ於テ互ニ競争々奪ヲ事トシ以テ團體ノ結合力ヲ弱メ、ヒイ
 テソノ保有セル獨占的地位ノ破壞セララルニ至ランコトヲ防ギ、組合員各自ガ安穩ニソノ營業ヲ

(11) 云合印形帳。大阪市史一、753頁

(12) 赤穂問屋組合申合帳、大阪市史二、116頁

維持セントスルモノニ外ナラス、コノ趣意ヨリシテ右ノ規定ノ前半ニ於テハ荷主ト引請問屋トノ關係ヲ容易ニ變更セザラシメントシ、ソノ後半ニ於テハ同業者ノ營業ヲ相互ニ確保スルコトヲ明カニセルモノナリ。而シテ定法ニ於テ『新規鹽商内可致旨ニテ問屋取組候仁有之仲間加入爲致候共登船我儘ニ引請サセ申間數候、一同相談以凡年中入津ノ艘數ヲ以相應ニ割符致シ相定メ候テ對談相調、双方會得之上ニ札取之差加ヘ可申事』トイヘルハ同一趣意ヨリ出テタルモノトイハサル可ラス。以上ノ外尙定法ニ於テハ赤穂尼崎兵庫明石等ニ對スル直買出買ヲ禁シ、下方仕切口錢ハ前々ヨリ文銀一貫目ニツキ二十五匁ト定メ、賣口錢ハ國々所々ニヨリ相違アリト雖凡テ先規ノ如クスルコトヲ規定セリ。

問屋再興ノ後、古組假組ノ兩者相合スルニ及ンテ安政四年三月仲間規約ヲ結ビシガ文久二年五月之ヲ改正シタリ。而シテ改正ノ定法ニ於テハ『銘々運賃積ノ注文致候ニ付諸相庭ニ相響、亂雜ニ相成候間以來運賃積之注文致間數候』トイヒ、其他客船ノ中間屋ヲ代ヘシ時ハ先問屋ト新問屋トニテ分荷ヲナセシヲ廢シ滿三ヶ年間ハ先問屋ニ荷物全部ヲ引渡スヘシト改メ、仲間ノ外素人ヲ元船ニ同伴シ商賣ヲ爲ス可ラサルコト等ヲ規定シタリ。

五、問屋ト仲買トノ關係

問屋ト仲買トノ關係ニ就テハ既ニ寛保五年二月ノ島鹽問屋定法ニ⁽¹³⁾

(13) 組合沿革史、大阪市史、847頁

(14) 云合印形帳。大阪市史一、753頁

『一、當地中買衆之内、搦代銀不埒之仁有之候ハハ問屋中申合一切商致間敷候。尤搦代銀譯立有之候ハハ相談ノ上商致可申候併右之譯立無之内ハ縁類厚意杯ト申内證ニ而堅ク商致間敷候事

一、口錢定リ之内少シニ而モ減シ渡候仁有之候トモ一切請取申間敷候。若右之義ニ付彼是申仁有之候ハハ問屋中申合其仁エ商ヲ除キ可申候事』

トイヒ仲買ニ對スル關係ハ頗ル嚴重ナルモノアリシガ如シ。降テ天保七年正月ノ三搦問屋ト組合仲買トノ申合セニヨレハ、⁽¹⁵⁾ 搦相場ニツキテハ、島搦相場立ハ先規ノ如ク問屋仲買荷主三方立會ノ上、内味廻ヲ行ヒ正路ニ賣買スヘク、島搦ノ外、諸國ヨリ入津ノ搦ハ問屋仲買立會ノ上是亦舊規ニ從ヒ滞無ク正路ニ賣買スヘキコトヲ約シ、仲買一統ヨリハ不申及、譬一人ニテモ問屋方之仁不歸依ト申立賣買不仕仁有之候得ハ早速行司へ御引合被下双方相談之上在來之作法ヲ以テ相調趣意無之様事濟可仕候、尤何事ニ不審相談在之候得ハ双方共熟談上萬事相究相互ニ勝手筋申間敷候事』ト約シタリ。而シテ『私共組合仲買へ新加入望之仁有之候得ハ則各方問屋へ相談之上差支等モ無之候得ハ其仁加入爲致可申候、猶又両組ノ内ヨリ別家加入之儀ハ年限大切ニ相勤候仁ニ候得ハ無異議加入爲致可申候事』トセリ。要スルニ仲買ハ身元尤菲薄ナルニヨリ自然ソノ仲間ノ規矩ヲ正スコト十分ナラス、常ニ問屋仲間ニ附從シタリシコトヲ察スヘキ也。⁽¹⁶⁾ 尙右ノ申合規約ニハ仲買ノ直實上積ヲ禁シタルガ三搦問屋ト尼崎搦問屋トノ申合モ又專ラコノ直實上積ノコトニ關係セルモノナルヲ以テ兩者共ニ次項ニ於テ之ヲ説明スヘシ。

六、取引方法

(15) 組合沿革史。大阪市史二、342頁
(16) 大阪商業習慣録、86頁

既ニ述ハタル如ク當初赤穂其他産地ヨリ鹽船入津スルヤ直接需要者ニ販賣セシガ、ソノ弊ヲ防クタメ問屋ヲ組織シ直賣ヲ行ハシメサリシ也。然ルニ實永ノ末年ニ及ンテ再ヒ鹽船直賣ノ弊起リ市中仲買小賣商人等迷惑ノ旨奉行ニ、出訴セシカバ鹽船々宿ニシテ且桝預人タル鹽屋徳兵衛、備前屋市右衛門兩名ヲシテ取締ノ任ニ當ラシメシガ幾モナク鹽船ガ其碇繫地タル江ノ子島及戎島兩濱ノ上荷船仲間ト衝突シテ兩濱ニ着岸セサルコト十年ニ亘リ十分ナル取締ヲナスコトヲ得ザリシト云フ。享保十年及ヒ十四年徳兵衛市右衛門兩名總年寄ニ上書シテ取締ヲ嚴ニセシコトヲ以テシ、三郷鹽仲買ヨリモ近年西國筋鹽船古法ヲ蔑視シ桝廻ヲ爲サス、又問屋仲買ノ立會ヲ待タス俄ノママニテ直賣ヲ行ヒ、營業ノ妨ヲナス旨歎願ニ及ヒシカハ、遂ニ徳右衛門市右衛門ハ鹽直賣吟味役ヲ命セラレ、向後一俵タリトモ直賣ヲナサハンノ船ハ勿論船宿モ其責ヲ免レサルコトトナリ之レニヨリテ直賣ヲ禁スルコトヲ得タルモ他方ニハ問屋獨占ノ弊ヲ生セシコトハ既ニ述ヘタル所ノ如シ。(17)

(註) 鹽問ニハ四升四合ヲ容ルル箱桝(廣サ九寸三分深サ三寸三分)アリ、此箱桝ハ小島支配ノ代官千種清右衛門ガ同島ヨリ毎年大阪御鹽噺方ニ納付スル年貢噺ヲ量ランカタメニ元文五年十一月同島村々庄屋及鹽荷主ニ與ヘタルモノニテ總數八箇アリ其内七箇ヲ島方ヨリ大阪ノ島鹽問屋ニ與ヘ島鹽問屋ハ之ヲ桝宿ニ委託シテ鹽ノ桝廻ヲ爲サシメタリトイフ。(18)

以上ハ産地ヨリノ入津船ニツイテノ關係ナルガ更ニ他地方ニ出テテ直賣ヲナスコトヲモ之ヲ禁シタリ。寛政四年八月ノ赤穂問屋定法⁽¹⁹⁾ニ「播州赤穂表ハ勿論尼ヶ崎兵庫明石等ニ直賣出買等致問敷段前々ヨリ仲間申合有之候此義相庭立ノ妨ニ相掛リ候間急度相守可申候萬一仲間手支ノ節ハ一統相談之上如何様共取計可申候事」ト規定シ天保七年正月ノ三鹽問屋ト組合仲買トノ申合⁽²⁰⁾ニモ

(17) 組合沿革史、大阪市史一、752頁

(18) 大阪市史一、730頁

(19) 赤穂問屋組合申合帳。大阪市史二、116頁

(20) 組合沿革史、大阪市史二、342頁

「從私共組合（仲買）尼ヶ崎塚其外近在ニテ擡直買致候テハ當地相庭立之差支ニ趣御引合被下御尤之儀ニ御座候間依之以來右場處ハ不申及外々ニテモ決テ擡直買致間敷候萬一心付違之段有之候得ハ早速仲買行司へ御引合被下急度評定可仕候事」ヲ約シ、且近年大阪近在ノ者下方ヨリ擡船ヲ引請ケ淀川筋上積ヲ行ヒ、當大阪表相場立ノ故障トナルヲ以テ將ニ問屋ヨリソノ禁止ヲ出願セントス、故ニ組合仲買ニ於テモ益直買ヲ慎ミ問屋ノ營業ヲ妨クヘカラサルコトヲ戒告セルニ徴スレハ、當時擡ノ直買上積ハ一種ノ流弊ヲナセシモノノ如シ。而モカクノ如キ弊風ヲ生シタル所以ノモノハ全ク大阪表ト直買地方トニ於ケル擡直段ニ高低ノ差アリシニ依レリ。乃チ三擡問屋ヨリ尼ヶ崎擡問屋ニ交渉シ同年四月一ノ申合ヲナシテ曰ク、

「一、島擡ノ儀ハ入船ノ初直組并ニ元船荷役積引萬端御地（大阪）同様ニ可致候事

一、灘擡赤穩擡之儀ハ於尼ヶ崎直組仕來リ候得共此度和談行届候上ハ大阪尼ヶ崎右側處へ入船有之候節ハ直組并ニ元船荷役積引萬端御地同様可致候尤尼ヶ崎入船有之、大阪表入船無之節ハ尼ヶ崎ニテ直組可致候、乍併相互ニ差支ニ不相成候様取斗可致候猶亦其初ハ以書面御通達可申候事

一、當處（尼ヶ崎）地庭賣擡拂底之節ハ相互ニ差支ニ不相成候様直組取斗可致候事

一、淀川筋上ミ積之儀ハ三擡共相庭立并ニ元船荷役積引萬端御地同様ニ可致候約定ニ御座候、尤上ミ筋賣擡之儀ハ相互ニ差支無之様可致候事」

以上ノ外天保九年九月ニハ島擡船頭ノ小賣擡及見差擡（候ヨリ盜出セシ擡）ヲ元船ヨリ直賣スルヲ禁シ、スヘテ擡荷ハ悉ク一旦船宿ニ集メ見差擡ハ十四貫目ヲ一俵トシ問屋又ハ仲買ニテ買取ルコトトシ、若シ船宿及問屋仲買ヨリ小賣擡見差擡取締ノ爲ニ派遣セル人ノ目ヲ掠メ船宿以外ニ荷揚ヲ爲シタ

ルコト發覺セハ其船ノ擔荷ハ直組ノ時一俵ニツキ四合引ト爲スコトヲ定メタリ。

(22)

以上論スルカ如ク直買出買ヲナスヲ得サル規定ナルカ故ニ各產地ヨリ輸入シ來ル鹽ハ一ト先ツ問屋カ引受ケ更ニ仲買ノ手ヲ經テ賣却スルヲ原則トス。而シテ一定ノ荷主ヨリ送り來レル鹽ハ從來取引關係アル一定ノ問屋ノ手ニ入ルモノニシテ問屋ヲ變更スルコトハ頗ル困難ナリシコト并ニ荷船入津スルヤ濱着キノ儘ニテ問屋仲買荷主立會ノ上ニテソノ價格ヲ決定シタルコトハ既ニ問屋定法ノ條ニ於テ説ケル所ノ如シ。價格決定ノ後京都近江等ニ送ルヘキモノハ天道船ニ積替ヘ、大阪市街ニ送達スルモノハ上荷船ニテ之ヲ運搬スルモノニシテ倉庫等ニ貯藏スルコトナカリキ。タダ備前國産ト稱シ其國主ノ專賣ニ屬スルモノハソノ藏屋敷ニ納メ、一定ノ問屋ヲシテ入札セシメ之ヲ販賣スルノ規定ナリトイフ。(註)一般通常ノ取引ハ現金取引(一ヶ月決算ノコトモアリトイフ)ニシテ鹽問屋ガ有産者階級ノ者ナリシト鹽荷入津高ハ年々大差ナカリシト、且問屋仲買間ノ取引ニモ現金ノ授受行ハレタルタメ、兩替屋等ノ機關ニヨリテ資金ノ融通ヲ受クルカ如キコト殆トナカリシトイフ。

(23)

(註) 後ニ述ノルカ如ク天保十三年十月ニハ畿内中國西國筋ノ諸藩ニ令シテ國産品專賣ヲ禁シタルガ備前産鹽ノ專賣ニツイテハ弘化三年ノ文書ヲ存スルカ故ニ、右ノ禁令モ長クソノ效力ヲ持續セサリシモノノ如シ。而シテ備前産鹽專賣ノ方法ハ備前産鹽ヲ賣上ケ諸國廻船ニ賣渡ス外、大阪藏屋敷ニ送り、入札人ト入札日トヲ定メ、落札ノ翌日鹽切手(百俵ヲ單位トス)ヲ交付シ、藏出シノ前日コノ切手ヲ精切手ト引替、藏出セシメ、代金ハ毎月晦日ニ決算スルモノナリ。鹽專賣類似ノ方法ハ加賀藩、仙臺藩、大村藩、松山藩、徳島藩等ニ於テモ行ハレタルモノノ如ク、頗ル注意ヲ要スルモノナルカ故ニ、頗ナ厭ハズ、左ニ弘化三丙年備前御産物摺入札御仕法(24)ノ原文ヲ採録シ置クヘシ。

一、御國産鹽於御國元不發御賣上相成諸國實積廻船ノ儀ハ御國元ニテ夫々賣捌ニ相成候、尤灘州灘井泉洲界右阿處ヘハ積送り

(22)
(23)
(24)
(25)

不致、上ミ積ノ儀ハ當處御藏屋敷へ爲積登ニ相成不殘入札ニテ御賣捌被爲成候御事。

一、御國產鹽一俵四斗八升入ニ仕立、濱々ニ寄、鹽善惡ヲ見分、上中下三段ニ相究、則御國元鹽會處ニテ御取締釜屋番附中札入ニテ爲御差登ニ相成候事。

尤船積之節右上下夫々送り狀へ相記シ候事。

一、鹽百俵宛切手賣ニ相成候事。

一、大阪賣切手ヲ以テ國元ニテ他國積可爲勝手候。但シ國元渡百俵ニ付三十目宛船賣引トシテ御戻シニ相成候事。

一、大阪鹽會處之外并尼ヶ崎、堺、兵庫、灘右五ヶ處へ御國產鹽積送リ賣捌一切不相成段於御國元御吟味有之事ニ候得共、萬

一御國元ニテ他國積ト相唱右五ヶ處之内へ抜ヶ積致候者有之候ハハ早速鹽會所へ船頭名前可申出候、若聞捨其儘ニ致候節ハ相互ニ狎リニ相成候ニ付精々相糺可申候事。

一、御入札日之外一切賣出シ不申候事。

一、御國產鹽賣捌入札人名前左ノ通

(天滿屋七兵衛外九名、名前略ス)

右十人之外入札落札等決テ不相成候様入札人之内申合不實ノ入札致候者有之候節ハ一統之越度可爲候事。

一、落札入札日百俵ニ付金二歩宛入金差入、御切手引替ニ成候事。

一、鹽荷物藏出シ前日御切手ト積切手ト引替へ順番之通荷物請取可申候事。

一、落札毎月二十二日迄ノ荷物請取方月越ニ相成候ハハ百俵ニ付五匁宛藏敷相掛リ候事。

一、落札總代銀毎月晦日御皆納可仕候、尤金相廳中直ニ相納候事。

一、毎月二十三日ヨリ後落札總代銀翌月晦日御皆納仕候自然取引不將ノ者出來候ハハ御產物會處名前御取上ケニ相成候尙亦一見名前御取上ケニ相成候者へハ御國產鹽銘々共ヨリ決テ賣渡申間敷候事。

一、毎月晦日鹽代皆納之外、賁日ニ付貳拾日宛上掛リニテ皆納可仕候事、右之通此度御産物鹽御仕法被仰付奉長候、萬一心得違之者有之節、如何様ノ御取斗ニ相成候共其節一言之申分無御座候依之節々印形仍テ如件

備前御藏屋敷御役所

天滿屋七兵衛外九名

御藏本 米屋亮右衛門殿

賣支配人 橋磨屋徳右衛門殿

取扱人 嶋屋佐兵衛殿

以上ノ全文ニロリ專賣入札ノ方法、問屋トノ關係、及ヒ藏屋敷ニ於ケル特殊ノ役職等ヲ知ルヲ得ヘキ也。

七、鹽ノ需給

凡シ諸國ヨリ大阪へ入津スル船舶ニハ皆一定ノ碇繋場及船宿アリ、諸國鹽船ハソノ始メ北濱井池(通稱)ニ着キタルモ寛文ノ頃土佐堀越中橋附近ニ移リ、文祿ノ頃ニハ又九條島ニ轉セリ、尤九條島ノ對岸ハ江ノ子島ナレハ、鹽船ノ碇繋場ヲ江ノ子島トナスモ同義ナリトイフベシ(26)。而シテ大阪へ輸送セラルル鹽ハ中國并ニ阿波讃岐伊豫等ノ產品ニシテ俵裝升目等ニ大差ナキモノヲ相交ヘ之ヲ三種ニ類別シ主產地ノ名ヲ冠シテ島鹽灘鹽赤穗鹽トイヒ之ヲ總稱シテ三鹽トイフ、而シテソノ販路ハ大阪三郷ハ勿論五畿内并ニ近江伊賀丹波土佐其他北國筋ヘモ輸送セラル(27)。江戸ニ對シテハ鹽ハ米酒醬油味噌水油魚油炭薪綿毛綿ト共ニ所謂十一品ノ中ニ數ヘラレ、廻船會所ノ船ニテ江戸へ直送セラレ他所船ニテ廻送シタル場合ニハ之カ届出ヲナスヲ必要トシタリ(28)。而シテ享保九年ニハ六千七百八十俵、同十五年ニハ二千四百俵ヲ江戸ニ送リシトイフ(29)。然ラハ大阪問屋ノ鹽引受高

(26) 組合沿革史。大阪市史一 393, 551 頁

(27) 大阪市史二 670 頁。諸色取締方ノ儀ニツキ奉伺候書付(大阪市史卷五所收) 647 頁

(28) 大阪市史三 265, 289, 422, 555 頁

(29) 大阪市史一 650 頁

ハ如何トイフニソノ増減ヲ明カニスルヲ得スト雖、元文元年諸色登高表⁽³⁰⁾ニヨレハ四十六萬二千六百七十七石六斗四升トアルヲ以テ五斗俵トスレハ九十二萬五千俵以上トナル。其後天保ノ頃ハ平常問屋引受高一ヶ年百二十萬俵内外ニシテ三搦平均相場一俵ニツキ二匁七八分ナリシトイフニ徴スレハソノ廻着高モ大略之ヲ窺フコトヲ得ヘシ。

元來搦濱働人ハ何レモ小身ノ者ナルヲ以テ天保年間諸國違作相次ギ米價高直トナルニ及ヒソノ業ヲ維持スル能ハス或ハ離散シ或ハ農業ニ轉シ、搦濱次第ニ衰微シ天保ノ末年ニ及フモ尙恢復セサル處アリ、大阪問屋ヨリ仕入先ヘノ貸銀等モ清算ヲ了ヘサルタメ其後ノ仕入等ニ躊躇シ、加之天保十一年以來阿州及播州姫路等ニ於テ領内ノ搦ヲ領主ニ買上ケ大阪ヘ廻送セス直ニ江州勢州路等ノ從來大阪問屋ノ賣先地タリシ地方ニ送リテ直接販賣ヲ爲サントノ計畫アリ、ソノ都度濱師ハ勿論大阪問屋ノ迷惑トナリ、未タ右ノ計畫ハ實現スルニ至ラザリシガ、此等ノ影響ニテ大阪廻着高減少シ、十二年中間屋引受高ハ八十八萬六千六百俵餘ニスギズ、直段モ騰貴シ三搦平均相場一俵ニツキ二匁五分餘トナレリ。阿部遠江守〔諸色取締方ノ儀ニツキ
奉伺候書付〕ナ上レル者コレニツキ論シテ曰ク、搦濱衰微ハ一時ノ現象ニシテ、其後ノ年柄豊作ナル以上ハ米價ノ下落スルト共ニ恢復スヘク、且問屋ノ先貸銀不清算ノタメ跡仕入ヲ躊躇スルコトハ一理ナキニ非スト雖此上益々廻着高ヲ減スルニ於テハ仕入先貸銀等ノ勘定ハ彌困難トナルヘシ。故ニ今後トモ仕入先貸銀ヲ寬ニシ諸家國産取捌ニ就テモ領主地頭物成ノ外ノ品ヲ取扱フコトヲ禁スヘシ、然ラハ搦ノ廻送モ増加シ、價格モ自ラ下落スルニ至ルヘシ。而モコノ理ハ單ニ搦問屋ノミニ限ルニアラス大阪町人一般ニ對シテモ同様ナ

(30) 大阪市史一 769 頁

(31) 諸色取締方ノ儀ニツキ奉伺候書付 648 頁、尙沿革史及大阪府誌ニモ廻着儀數ノ大略ヲ掲ケアルモ上ニ述フル所ト大ナル差異アルカ如シ

(32) 拙稿天保度ノ米價綱領(本誌前號所掲) 175-6 頁參照

リト。(33) 果然天保十三年十月ニハ畿内中國西國四國筋ノ領主地頭ニ於テ自國他國ノ產物ヲ買集メ賣荷ヲ藏物トナスコトヲ禁シ、翌年四月ニハ仕入銀ノ先貸ヲ勸メ、上方筋ヘ登サルル荷物ヲ赤間ケ關并ニ瀬戸内浦ヘ赴キテ糶買スルコトヲ禁スルニ至レリ。(34) (35) コハ單ニ鹽ノミニ關スルモノニアラスト雖カノ仲間制度ノ廢止ト共ニ當時ニオケル物價政策ノ一端ナリト認ムルコトヲ得ヘシ。

八、維新後ノ鹽商者組合

明治四年ニ至リ大阪府權知事渡邊昇ノ鹽問屋仲間ノ解散ヲ命シテ自由營業タラシメシヨリ濫賣競争ノ世ト變シ、復制スヘカラサルニ至リ、翌五年同業者商議シテ鹽商社ト稱スルモノヲ組織シ事務所ヲ西區江戸堀南通二丁目ニ設立シテ古來ノ弊風ヲ一洗シ賣買ヲ入札法ト改メテ營業セシガ同業者中異議ヲ唱フルモノ續出シ爲メニ解散ノ不幸ヲ見ルニ至レリ。超エテ七年更ニ鹽商議所ヲ設ケテ同業振興ノ策ヲ講ジ二十六年大阪同盟鹽問屋集會所ト改稱セリ。翌二十七年諸商品取引法ノ施行ニ基キ別ニ大阪鹽取引所ヲ設ケ二十八年迄ハ商勢大ニ盛ナリシカ其後有名無實トナリ三十二年解散スルコトトナリ唯大阪同盟鹽問屋集會所ノミハ猶舊ノ如ク繼續シタリ。(36) 三十八年鹽專賣法ノ實施セララルニ及ンデ鹽元賣捌人タルモノガ政府ヨリ鹽ヲ買受ケ之ヲ鹽小賣人ニ賣渡スコトトナリ現時ノ大阪鹽元賣捌人組合ノ成立ヲ見ルニ至リタルモノトス。

安政ノ頃假組カ古組ニ加入シタル際ニハ巨額ノ加入銀其他ノ經費ヲ要シタルコトハ既ニ述ヘタル所ナルガ、維新後明治四年ヨリ三十四五年ニ至ル間ニ於テハ、鹽問屋ニ加盟セントスルモノハ振舞トシテ問屋組合員ヲ響應シ之ニ消費スル金額凡ソ三十圓ナリシトイフ。(37) (完)

(33) 大阪市史二 670 頁、御藏書集覽
 (34) 大坂市史 1623 頁、德川十五代史 235 頁、御藏書集覽
 (35) 諸色取締方儀ニツキ奉伺書付 648 頁、大坂市史二 670 頁
 (36) 大坂市史 1668-9 頁、大阪府誌 一、584 頁
 (37) 諸色取締方儀ニツキ奉伺書付 648 頁、大坂市史二 670 頁